

街路樹

「タネ」と「シカケ」

9月

いじめの理解と「認知件数」

この夏、「授業改善講座」の講義をしていただいた前筑波大学附属小学校副校長の細水保宏先生は、全国の子どもたちを相手に多くの授業をされています。細水先生の授業は、初めて出会った子どもたちが、自分の考えを話したくて仕方がないという様子になり、先生が思った方向に授業が展開されていきます。皆さんは、そんなすばらしい授業を見ると、それに感化され、話し方や子どもへの言葉かけを真似て授業をしてみたことはありませんか？多くの場合、一過性ではあるものの子どもたちは授業に集中し、とてもよい授業になります。これは

「細水マジック」なのでしょうか。



話し方や言葉かけを真似ただけで、細水先生の経験に裏付けされた高い指導力（その学習の系統性や根幹にあるものをつかんでいる教材研究、緻密な授業計画等）が手に入るわけではありません。しかし、子どもたちは授業に集中するのです。「細水マジック」の謎を解けば一過性ではない「良い授業」が展開できるのではないかと考えました。そのヒントがこの夏の講座の中にありました。

「授業改善講座」の受講者感想には「言葉による『価値付け』は学習や学級経営に大きな影響を与えるということを考えさせられた」「『価値付け』をすることの大切さがわかった」という内容が多く見られました。講義の中では、受講者自身が細水先生の言葉かけに研修の方向性を与えられ、手を挙げ、発表し、黒板に書き、自分の考えを説明していました。先生は、講義の中で研修者に様々な言葉かけをしながら「発表をすることはいいことだ」「自分の考えを話すことはすてきなことだ」という「価値付け」を行っていたのです。細水マジックの「タネ」は、「子どもたちにこうしてほしい。」「子どもたちにこうなってほしい。」という「教師の思い」だったのです。そして、「シカケ」は、それらのたくさんの言葉かけの中にあるぶれない「価値付け」の言葉であると感じました。

そうなってほしいと思う姿があれば、なぜそこまで達していないのかという課題が見えてきます。課題が見えてくれば、それを改善するための指導をしていけばよいのです。即効性のある指導もあるでしょう。しかし指導の多くは持久戦です。子どもが行くべき「よりよい道」を指し示す「方位磁針」のようにぶれない教師の姿勢を示していくことが大切なのです。毎日、毎時間こつこつと。そして、「よりよい道」に進めるような子どもの「よりよい行動」をその都度認める「価値付け」が大事になるのです。

話し方や言葉かけの真似ではなく、その根底にある教師としての思いをしっかりと持ち、子どもたちが、「手を挙げることをためらわず、発表することを楽しみ、自分の考えを誰かに伝えたくてしょうがない」と思うようなすてきな言葉かけ（価値付け）を継続できるように研究と修養に努め、オリジナルのマジックを仕上げていきましょう。



いじめの代表的行為とは、からかいや嫌がらせ、陰口や無視など「暴力を伴わないいじめ」であり、激しい暴行等を伴うものは例外的なものです。個々の行為だけを見れば好ましいものではありませんが、日常的によくあるトラブルと言えるかもしれません。しかしそうしたささいに見える行為が、しつこく繰り返されることで、いらいら・不安感・屈辱感・孤立感がつるり、時に死を選ぶほどに被害者が追い込まれることから、いじめを問題視していく必要があるのです。どの児童生徒も被害者にはもちろん、加害者になり得るという事実を正しく理解することが大切です。



さて、先日、文科省から昨年度分のいじめ状況について再度見直し、報告をやり直すよう通知が出されました。いじめ認知件数の報告数に都道府県間で約85倍の差があったこと等を踏まえての異例の通知です。

いじめ認知件数については、「単に数字が少なければよい」という考えではなく「数字の多寡に関わらず解消率が高いことが重要」と考えることを求めています。また、調査を通して、客観的に実態を把握すること、報告を求めることで、学校や教職員の問題意識を高め、未然防止や早期対応の取組を促すという2つの意義があります。

学校全体で、いじめへの理解を深め、いじめ認知件数等を自己点検の機会とし、いじめ対応に向かい合うことが求められています。

「国立教育政策研究所生徒指導リーフ」より



夏季休業中 ～ 研修講座の感想 ～

<発達障がい教育講座> 7/28(火)

- ☆ ユニバーサルデザインの理解が深まった。
- ☆ 子ども達の困難さを体験する演習を通し、その子なりの支援をする大切さを学んだ。
- ☆ 合理的配慮の大切さを改めて感じた。



<学級経営実践講座> 7/31(金)

- ☆ エンカウンターはとても効果的であり実施してみたい。
- ☆ 関係づくり、ルールの定着など普段行っていることを大切にしたい。
- ☆ 2学期以降にアンケートの分析結果を生かし学級経営に生かしたい。

<放射線等に関する教育研修> 8/3(月)

- ☆ 実験や測定体験を通して実感を伴って理解することができた。
- ☆ 課題を挙げて焦点化することにより今後学校で行うべきことが明確になった。
- ☆ 最終的な子どもの姿、指導の系統性が示されており勉強になった。

